

---

# ソードアートオンライン シリカの冒険

MITUKAN

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ソードアートオンライン シリカの冒険

### 【Nコード】

N6963Z

### 【作者名】

MITUKAN

### 【あらすじ】

ソードアートオンラインのスピノフ的な作品です。

主人公はタイトルにもあるようにシリカです。

キリトはメールのみ、アスナは出ません（名前ぐらいは出るかも）。リズ、エギルは出演する予定。クラインは……

時間軸としてはキリトに出会ってから、SAOが解放されるまでです。

設定はSAOに準拠していますが、脳内保管による俺設定が随所にてできます。

## スキル

スキル

アインクラッド第39層

2024年2月

「これで決める！」

街道から外れた林の中で少女の声が響いた。

少女は眼前の猿人 アグリーエイブ に5連撃の短剣スキル フ  
アッドエッジ を叩き込んだ。

2撃目と3撃目に発動したクリティカルヒットにより、全弾を浴び  
る前に猿人はオブジェクトと化し、  
爆散した。

「きゅるう」

戦闘の終わりを確認した小さなドラゴンが彼女の右肩に止まり、  
わずかに減ったHPを回復させる。

「ありがとう、ピナ」

左手で小竜の頭をなでながら、彼女はやさしく微笑んだ。

彼女の名はシリカ、右肩に乗る小竜 フェザードラゴン をテイ  
ムしたことにより

竜使いシリカ として名を知られるプレイヤーだ。

シリカは今日、ソロでここ39層のフィールドで狩りをしていた。

このフィールドに出現するモンスターは30層〜38層で出現した獣人の上位版だが、単体でしか出現しないので、Lv45のシリカにとっては組みやすい相手だった。

さらにリーチの短い短剣にとって、表面積の大きい人型は獣型よりも格段に当てやすいというメリットもある。

「キリトさん…」

シリカは右手に握る短剣を眺めながら、この情報を教えてくれた人の名をそつとつぶやいた。

彼、キリトは最前戦で戦う攻略組と呼ばれるトッププレイヤーの一人で

シリカとピナの文字どおり命の恩人であった。

迷宮で道に迷い、ピナを死なせ、自信も命の危険にさらしていたのを助けられたばかりか、上層のダンジョンでピナを復活させるアイテムをとるのにも協力してくれた拳句、

帰路に遭遇したオレンジギルドのPKをも撃退してくれた。

（この件は彼が最前戦から下層においてきた理由でもあったのだが…）

シリカの右手に握られた短剣　イーボン。ダガー　もその折に彼

からもらった物だった。

事後、最前戦へと戻る彼にフレンド登録はしてもらったが、まさに命がけて戦う彼にたわいもないメールをおくるのはためらわれ、

丸一日迷った拳句、「ピナをまもれるよう、強くなるにはどうしたらいいか？」

といった無難だともわれる相談を試してみた。

そのメールにキリトはすぐに返信（メールが届いた瞬間、ピナに見せながら宿屋のベッドで飛び跳ねたのは内緒）をしてくれた。

そこには推奨スキルとその効果や戦術、そして効率のよい狩り場情報が書かれてあった。

今、シリカがソロでフィールドに出ているのもそのスキルをあげるためだった。

「うん、だいぶ距離もつかめるようになったね。」

シリカは笑いながら一本のスローピックを拾いあげた。

キリトお薦めのスキルのひとつに 投擲スキル が含まれていたのだ。

これまで投擲スキルはそのダメージの低さや片手がフリーになる武器の少なさなどの理由もあって、積極的にスキルをあげるプレイヤーはほとんどいなかった。

だが50層が攻略されると店売りに状態異常の効果をもつ投擲武器が並ぶようになり、  
にわかに脚光を浴びだした。

投擲武器には 切断、 打撃、 貫通 とに種類が分けられるが、なかでも

貫通属性の武器と状態異常は相性がよかった。

特に麻痺は麻痺Lv1のピックでもフィールドモンスターなら貫通の継続効果により  
ピック一本で一分間も麻痺状態にできるのでその恩恵はかなりのものであった。

(ちなみにボスモンスターには状態異常はきかないので、攻略組では実はそれほど重要視されていない。)

そしてシリカのメイン武器である短剣との相性もまた良好であった。

短剣のデメリットにリーチの短さがある。それゆえに敵に気づかれるとまず間違いなく  
相手に先制を許してしまう。

その点、離れたところから放つ投擲スキルは先制攻撃にもってこいなのだ。

それに短剣なら他の大型武器と違い、武器を構えながらも投擲できる

(スキルなので利き手でなくても命中率等に影響はしない)のもメリットだ。

大型武器で使用する場合、まず武器未装備で投擲、その後、あらためて武器を装備、それから攻撃と手順を踏まなければならない。AGIがのびにくい大型武器プレイヤーにとってこれはかなりの時間のロスとなる（これも攻略組内で使用者が少ない理由）。

その点、AGIに負担の少ない短剣にとっては武器装備したまま走れるというのが魅力のひとつである上、短剣使いのステータスはAGIが高いので問題ない。

また手数が多さでダメージを稼ぐ短剣でも一分間という時間は格下の相手を屠るのに十分すぎる時間となる。

あと 投擲スキル の利点にスキルアップのしやすさがある。

場所、相手を問わず、とにかくものを投げて命中させればスキルがあがるのである。

このためボリウムゾーンの主街区では今ダーツがひそかなブームとなっている。

シリカはピナの好物であるナッツを投げ与えることでスキルあげをしている。

（ピナも遊んでもらえていると思うのか、すごく喜んでいる。）

ともかく投擲スキルのレベル上げは順調に進んでいるのだが、もうひとつのお薦めスキルがシリカの悩みの種だった。

「はあ、人前ではさせないよ〜これ」

「威力や効果には問題ないのだが、乙女としてはおおいに問題があるスキルであった。」



## スキル（後書き）

お読みいただき、ありがとうございます。

SAOの設定は電撃文庫版を参照しています。（作者はWEB版は未読）

各層のフィールドや出現MOBとその名前、スキルやアイテムなどはそれっぽいのを  
適当につけています。

よろしければアイデアをお教えいただけたら（エリアやMOBの名前）ありがたいです。

## お知らせ

お知らせ

作者のMITUKANです。

ソードアートオンライン シリカの冒険をお読みいただきありがとうございます。  
とっございます。

この度、みみ様より公式同人誌の存在をお教えいただき、

私の設定がすでに破綻していることが判明いたしました。

あくまで文庫版にのみ準拠するという形でつづけることも考えましたが、

オリキャラならともかく、作品内のキャラを使っているながら原作者ご本人の設定を無視する行為は

個人的に原作を貶めることになるという考えにいたりました。

そこで、本日18:00を持ちましてこの小説は削除させていただきます。

お気に入り登録していただいた方々にはまことに申し訳ございませんが、

どうか、ご了承ください。

M  
I  
T  
U  
K  
A  
N

2  
0  
1  
1  
·  
1  
2  
·  
2  
4

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6963z/>

---

ソードアートオンライン シリカの冒険

2011年12月24日11時48分発行